

音楽教育専修

授業科目名	担当者	講義概要
学校教育論	岡谷英明	現代学校の課程を理論的に解明することを目的とする。変貌する社会の中で教育システムがどのように編成されるべきかを考える。
学校経営論	平井貴美代	学校の経営過程や組織的特性に関する基本的事項について学習するとともに、開かれた学校づくりや学級崩壊など、最近とくに話題となっている問題についてアプローチするための視点や方法を検討する。 テキスト使用：『新版 学校教育の基礎知識』（協同出版）
生徒指導論	高柳真人	児童・生徒の自己指導能力を育てながら、その自己実現を援助するというガイダンスの視点に立った生徒指導を進めていくための理論や方法について学ぶ。
学習指導論	馬場園陽一	自ら学ぶ意欲や考える力の育成を目指す授業の方法、一人一人の児童生徒の良さを生かす授業の方法、さらにはこれらの力の育成を目指した教育評価の方法について、その理論的側面を探り、学習指導への実践的なアプローチを試みる。また、新しい学力観のもとで実践されている様々な授業方法（例えば、体験学習、総合学習、問題解決的学習、コース別学習、T・T等）についても紹介し、学力形成との関係を論じる。
教育相談論	金山元春	教育相談は、人間関係の営みの中で行われる実践活動である。本授業では、受講生の人間関係能力の開発を通じて、教育相談の実践力の向上をはかる。具体的には、グループワークを活用し、自己理解、他者理解を深めたり、社会的スキルを学んだりする機会を提供する。講義については、実践経験豊富な研究者あるいは実務家でありながら学会等で活躍されている方の研究成果を上げる。
情報演習Ⅰ	中西 秀男	高度情報化社会に積極的に対応できる情報処理の基礎能力を身に付けた教員の養成を目的として、コンピュータとソフトウェアの基本操作並びにネットワークの利用方法に関する演習を行う。情報演習Ⅰでは、Windowsの基礎、電子メール、文書処理及び表計算などよく利用される機能を中心に基本操作に重点を置いて演習する。
情報演習Ⅱ	赤松 直	ある程度習熟した人を対象に、コンピュータの活用能力、情報処理に関する総合力を身に付けることを目的として演習を行う。内容は、ネットワークの設定およびその基礎知識の習得、ホームページ作成、各種ソフトウェアの活用などである。これらを通して、情報化社会の課題や情報リテラシ教育についても一緒に考えることにする。自前のノートパソコンを携行願いたい。
音楽科教育特論Ⅰ	山中 文	音楽教育研究の歴史と現状を考察するとともに、それを通して、音楽科における教師の指導性と授業システムの関連を検討する。
音楽科教育特論演習Ⅰ	山中 文	文化としての音楽の機能を踏まえ、教育内容と教材の関連から、音楽科の授業構成を考察する。
器楽特論Ⅰ	脇岡総一	演奏にとっての土台である呼吸法とアンブシャアの確立と、ベートーベン、ブラームス等のオーケストラ作品における重要なパッセージの表現テクニックの修得。
器楽特論演習Ⅰ	脇岡総一	すでに培った演奏技術のさらなる向上を目指し、それに伴って各専攻楽器のリサイタルCDを製作する。
器楽特論Ⅱ	宮田信司	ピアノの演奏法と楽曲の分析、解釈について研究を深める。扱う作品は、主に古典派のピアノソナタや、ロマン派の作曲家による作品とし、特に晩年の作品を研究することにより、深い芸術性に触れ、それらの作品の演奏に必要な難易度の高いテクニックの修得に努める。

音楽教育専修

授業科目名	担当者	講義概要
器楽特論演習Ⅱ	宮田信司	器楽特論Ⅱに加え、扱う作品を近代ピアノ曲、ロシア作品に広げ、より細やかな演奏法を研究する。さまざまなタッチや音色、運指やペダリング等を自らが選択できる能力を育てる。また演奏経験も多く積ませ、表現に巾をつけられる様に指導する。
声楽特論	小原浄二	声楽表現に必要な喉頭機構と、それをコントロールする筋肉の働きを理解し、それらを効率よく作用させるための呼吸法を身につけ、より豊かな表現の可能性を追求する。また、声楽作品についての普遍的かつ芸術的表現のあり方について論ずる。
声楽特論演習	小原浄二	バロックから古典にかけてのcantata、オラトリオ、また、ロマン派のドイツリートを中心に曲の解釈と演奏法について研究を深め、発声法及び歌唱技法の実践を通して、より高い芸術性を追求していく。
音楽学特論	高橋美樹	世界の諸民族の音楽を様々な角度から考察する。音楽が人々にとってどのような意味をもつのか、社会構造と音楽の関係、自国の音楽と近隣諸国の音楽との関係、伝承の形態、非西洋社会における西洋音楽の受容、マスメディアの発達などに着目する。
音楽学特論演習	高橋美樹	世界の諸民族の音楽を対象とした研究の中から、民族音楽学研究、ポピュラー音楽研究の主要な文献を講読し、アプローチの方法を考察する。さらに、各自研究テーマを設定し、文献、楽譜、音源などを調査分析した上で、口頭発表、論文の完成を目指す。
音楽科教育実践研究Ⅰ	山中文	音楽教育に関する附属校園等の授業研究を基に、音楽の授業のあり方について検討を加え、教材研究、指導法について、理論的に研究することを指導する。
音楽科教育実践研究Ⅱ	脇岡・宮田・小原・高橋	附属校園等で行われている授業の記録・観察及び授業資料の研究などを通じて、より良い音楽の授業のあり方や教材開発を、院生の専門分野を生かして、実践的に研究することを指導する。
音楽科教育実践研究Ⅰ(長期インターンシップ)	脇岡・宮田・小原・高橋・山中	附属校園等において専修指導教員及び実習校指導担当者のもと、教材開発、学級経営、児童生徒の観察、子どもとのふれあいにもとづく単元計画作成、または、LD、ADHD、不登校、乳幼児等子どもの観察にもとづく実習計画作成を行い、実践的な課題研究テーマ設定の基盤を形成する。さらに、単元計画の実施、研究会への参加、公開研究授業、または、事例研究会への参加、ケース参加の実施を行い、結果を関連分野の研究方法に基づき省察することを通して、高度な専門知識・能力に裏付けられた実践的指導力を育成する。
音楽科教育実践研究Ⅱ(長期インターンシップ)	脇岡・宮田・小原・高橋・山中	附属校園等において専修指導教員及び実習校指導担当者のもと、教材開発、学級経営、児童生徒の観察、子どもとのふれあいにもとづく単元計画作成、または、LD、ADHD、不登校、乳幼児等子どもの観察にもとづく実習計画作成を行い、実践的な課題研究テーマ設定の基盤を形成する。さらに、単元計画の実施、研究会への参加、公開研究授業、または、事例研究会への参加、ケース参加の実施を行い、結果を関連分野の研究方法に基づき省察することを通して、高度な専門知識・能力に裏付けられた実践的指導力を育成する。
課題研究	脇岡・宮田・小原	学生個々人の問題意識及び課題把握に基づく自主的研究を深め、修士論文に直結する研究を指導する。